巻頭言

活力を生かす仕組みを

会計理事　石黒　辰雄

研究所のオフィスのファイル棚の上に並べられた英文論文誌がどんどん場所を占めていきます．昨年の赤一色のE分冊が更に発展し，今年1月からは分野別に4分冊（4色）になりました．キャビネットの幅をすぐにはみでてしまいそうです．ページ数は1991年に4,000を越え，1992年は更に増えることは明らかです．20年前の薄いアブストラクト集の時代，年間1,000ページ程度（和文の1/10）が続いた1980年代からみると，様変わりです．長年にわたる英文誌改革の議論に基づく新しい仕組みと，推進にあたっての各グループの英文誌編集委員会の献身的な御努力によるものと思います．

最近ある原稿を書く機会があり，引用文献を選択するため数種類のジャーナルを調べた中で，英文論文誌から適切なものを相当数見出すことができました．海外からの投稿も含め世界の動向を示すレビューや，先端の研究活動の論文が集められており，質的な充実を実感しました．

論文誌の評価として，よい情報源として多くの人に読まれ，引用されることが重要でしょう．国際化という面からは，長年の課題である海外での講読部数を何とかして増やしたいものです．但し，コピーマシンが普及し，また，データベースが整備されてきた今日，講読部数のみで考えるのはおかしいかもしれません．一方で，活動の一層の発展のため基盤をしっかりとしておくことは不可欠です．電子出版による編集出版の合理化，流通・保存の変革のためのデータベース化，CD-ROM化等検討課題はいろいろあります．電子情報通信技術の当学会が率先して開発すべき領域でしょう．

我が家のベランダには，あまりよく手入れをしないので，無秩序にいろいろな草，花が育っています．その中でゼラニウムは生命力が強く，枝を切って土にさしておくといくらでも増えていきます．密度が大きくなりすぎると発達がおさえられます．たまたま，一本の茎を何となく一本転がしておいたところ，その途中から何本もの芽がで，結果として，数株の列が育ち立派な一群の花をつけるようになりました．

当学会の組織改革であるソサイエティ制度への移行も長い時間をかけて論議されてきて，ようやく実施のイメージが固まってきています．当学会が自己成長の活力を持つかぎり，今までに築かれた共通の基盤の上に，それぞれにより広い空間を与えて発展させることによって，新しいより強固な姿ができるものと期待しています．